



# ポルトアイランドを ファッションヨン基地に

□出席者

宮崎 辰雄 △神戸市長

外島 健吉 △株式会社神戸製鋼所相談役  
神戸商工会議所会頭

木口 衛 △株式会社ワールド会長

牛尾 吉朗 △ウシオ工業株式会社社長

森本 泰好 △神戸地下街株式会社常務

中内 力 △シンエーフーズ株式会社社長

★官民一体となったファッション都市づくり

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、「神戸らしさ」の文化の発掘であった。文化を即生活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこそ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに彩り、楽しくしていくことは、まさに「文化開発」そのものではなからうか。

「ファッション都市・神戸」はそのような環境のなかで息づいている。

そこで、ファッション都市・神戸の本質的な理解——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

さて、本シリーズの最終回では宮崎市長をゲストに、経済界の第一線で活躍される方々として、ファッション都市づくりへの行政と経済界との取り組み姿勢を語る内容である。

宮崎 ファッション都市づくりに対する論議は百家争鳴の状況ですね。それぞれの方が色んなことをいっておられますね。ただ、コンセンサスというところまで行かなくても、多数の方の色んな意見がある方向に何らかの姿でまとまって来て、それを行政側の方からもブッシュユするという姿勢が、やっぱり一番普通じゃないかと思えますね。役所の関与は好ましくないという方もいますが、役所あたりがいい出したからファッション都市づくりの動きが出て来たのも確かなんで、関与しなかったら何も出て来ないという恐れもあると思うんですよ。そういう意味で役所が音頭取りの役割をすることが必要ですが、運営は民間でやっていたいたくのが一番いいでしょうね。ファッション考えた場合に一番大事なことというのは、町自身がそういう風な雰囲気のものにならなければ

いいファッション文化なりファッション産業なりは育たないということですね。

**森本** 神戸という町のスケールからいっても、歴史的な点からいっても、呼び水はどうしても行政の方でとっていただかないと目星がつかないという仕組みだと思います。四年前(昭和四十八年)、ファッション市民大学が出来、ミラノに市の職員を派遣して情報を得る、またファッションフェアをやるというように一気にファッション都市への胎動が出て来たわけですけど、この四年間にそれはそれなりの反響が出て来ていると思います。

たとえばKFA(神戸ファッション・アソシエーション)を筆頭にKFC(協同組合神戸ファッション・シティ)KFK(神戸婦人子供協同組合)KFS(神戸ファッション・ソサエティ)などのグループが出て来たこととか、小売の商店街の立場からいっても、何か共通の一つの目標が出来たので、それに刺激をされている。ただ、ファッションという言葉が日本語に訳した場合良い言葉がないので、これを流行ととられると非常な誤解を招くわけです。落ち着くところ、ファッションとは生活文化だということなんです、そのへんの誤解をうまく解消して行かないといけないですね。

ファッショナブルな町づくり、雰囲気づくりが大事だという市長の話があったんですが、そういうこともある程度定着しているのではないかと思います。だから、わずか四年ですが、ファッション都市の運動が出てから神戸の町は変わって来ている、活気が出て来ているということとは卒直にいえると思います。

**牛尾** 市長がおっしゃったように神戸市は完全な行政主導型のファッション都市指向であり、ハッキリいえば行政じゃなく市長の個性が出て来ているわけですね。ここに神戸の特殊性がありますね。神戸は行政主導型のファッション都市だと規定されるべきだし、我々経済人の立場としてはそこに刺激剤を与えることですね。四年たつていよいよ集約された成果が出て来ている。この次はい

よいよ我々の立場から資金の問題とか現実的なことに取り懸らなければいけない。たとえばポートアイランドに建設予定のホテル。これが呼び水になるかも分らない。

神戸経済同友会からメッセ(見本市都市)構想を提唱したのですが、これが実行されるべきなのは市長の判断によると思います。経済界の立場と行政の立場をハッキリさせて、すべてを実行へもって行く。神戸市のファッション産業化とか、ファッション都市づくりは市長の頭脳のなかにあり、それを押し進めていただくだけの話で、我々としてはそれに対する一つの宣伝活動をやっていく立場じゃないですか。知識集約型の産業ということがいわれて大分年数をかぞえますが、過程をズッと見て来た場合、我々市民のサイドで現実に実行されたのは何かということを反省すべきときでしょうね。

**木口** ファッション都市としてこれから発展して行くのは神戸しかないだろうというのはどこへ行っても聞かされますね。この間も京都商工会議所で京阪神三都市の連合の会議があったんですが、そういう所へ行って話を聞いても、どの人もそうおっしゃいますね。神戸はよろしいですね……第一、海がキレイだ、山があつて町並みにも非常なファッション性がある。それに神戸は市長がファッションに非常に理解が深い。そして、今度はポートアイランドにファッション街区の計画がある。それに神戸のファッション業界は歴史が浅いのでみんな若いから考えることが前向きで良いことを計画してくれる。そういうことが業界誌に載つたりするので、神戸という町はファッション都市として生きるんだなということは大方向が認めているわけですね。むしろ、放っておいたらファッションに關することはすべて神戸へ行ってしまうと恐れられていますね。

ワコールの塚本社長が、せめて京都にファッション大学を建てたい、大阪へはファッション・トレーニングセンターを建てて欲しい、神戸のポートアイランドの計画については三都市が協力しようと、そういうことで会議



宮崎辰雄さん

所として意見をまとめられないだろうかという提案をしておられた。新しいファッション都市づくりについてはすべて神戸にとられてしまうという焦りの気持ちだが京都にしても大阪にしても強いですね。

私たちは東京に支店を出しましたが、全部成功していませんね。ということは、神戸からもって来ましたという一応製品を見てくれるんですね。神戸の商品だと良からうという先入観がある。そういうことで全国の人が神戸はファッション都市にふさわしい町だと、口には出さなくても公認みたいな形になっていますね。全国から非常に買いかぶられていますけれど、我々の業界だけではチョット力不足で歴史が浅い。そういうことで市長が考えておられる大きなプランに十分にお応えが出来ないわけですが、これからも一生懸命やろうと思っています。外島 戦前から神戸という町には大阪や東京と違った新しさを感じていましたね。戦後になってからでも、今の



外島健吉さん

話にあったように神戸といったら新しさとパタ臭さを感じるということでも若い人が集まって来たわけですね。そういう根本的な神戸の気風があるわけですね。町並みや地下街の様子にしても大阪や東京と比べて、神戸の方がファッション性というか、新しさというか、文化的に進んでいるように思いますね。だから、ファッション都市構想は成功しましたね。若手がみんなそれにふさわしい商売をやるとういう気になって来ていますね。

町づくりはやはり市政、行政主導ですね。あるいはホテルを建てる、あるいは会館をつくる、あるいは店をつくる、ビルを建てるとか、アイデアは我々が出すけれど、やるのは行政ですね。だから市長の主導で我々がそれにマツチするようにやって行けば神戸は日本でユニークなファッション都市になりうると思いますね。

何もかも一ぺんにやろうとしても出来ないから、たとえばシンボルロードを設置することあたりから着手する。また、ポートアイランドがこれから段々整備されて来るのだけれど、古い神戸に負けないような新しいファッション都市として育てて欲しいと思いますね。

中内 神戸のイメージの良さはどこへ行きましても定評がありますね。ところが、町がきれいで山があつて港があつてという良さはあるのですが、いわゆる「目玉」がない。神戸に来たらぜひこれを見て帰ってくれというものをつくって行かなくてはいけないと思いますね。そういう点、市の方で博物館をつくられるとか、異人館を買収して公開されるとか新しい計画をどんどん発表されていきますので、民間としても大いに心強く思っています。

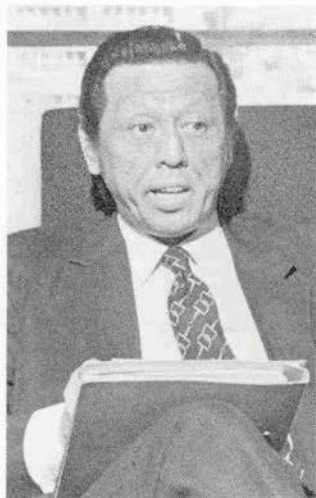
ファッション都市ということは京都や大阪でもいっているわけですね。だから、ファッション都市としての神戸の特殊性はどこにあるのかを考える必要があると思いますね。京都や大阪とどういう風に差をつけて行くかがこれからの課題ですね。同じような方向を追いかけていたのでは魅力がなくなる。情報文化都市だといつても客が来なければダメだ。どんどん人が入って来て、外から



木口 衛 さん

神戸に来るだけの価値のあるものが必要ですね。

今、私もポートアイランドに計画しているホテルについては、消極的な意味と積極的な意味の二つがあると考えています。現在、神戸のホテルの施設は客室でも不足していますし、宴会・会議施設も不足している。これを充当するというのが消極的な意味。もう一つは国際情報文化都市の創造を目指す神戸としてホテルがどういう機能を果さないといけないかという観点。これが積極的な意味で、その両面から考えないといけない。神戸市を日本を代表するコンベンション・シティとしてアピールしたらどうかということですね。ホテルだけなら東京にも大阪にも大ホテルがある。見本市会場だけだとこれも東京にも大阪にも大きいものがある。国際会議場なら京都にりっぱなものがある。ところが、ホテルと国際会議所と見本市会場ははじめから一か所に計画的に建設されたものではないと思いますね。その意味でこれ



牛尾吉朗さん

からポートアイランドに建設されるこれらを中核とする施設は日本では初めてのものとなる。メッセ構想が出ていますが、その第一歩としてコンベンション・センターをつくることにまずなるのじゃないですか。将来、それをメッセにもって行く。そして神戸市を日本を代表するコンベンション・シティとして日本中あるいは全世界にアピールすることによって全国会議、国際会議をどんどん神戸に誘致出来るのではないかと考えています。

#### ★神戸に必要なファッション大学

宮崎 神戸のファッションの特徴をどこにおいて行くかということなんですが、東京の連中が神戸のイメージとして、ヨーロッパ型ファッションというものを神戸に期待しているようですね。京都はやはり古典的な西陣を中心とするファッションですね。神戸はヨーロッパ型であると同時にトータルファッションを考えてそこに特徴をもたせて行くのが良いのじゃないかと思っております。それから神戸にはアクセントが少くないという事は確かにその通りですね。きれいな町というものは仲々アクセントがない。京都のように寺などもない。整いすぎてアクセントがない。何をアクセントにして行くかという点、これはやはりポートアイランドですね。ここにアクセントのある町をつくり上げて行く。神戸は昔からの伝統なんかあまりこだわらなくて良いですよ。これからの町、未来の町だからどんどんつくったら良いんですよ。その意味で国際見本市会場とか国際会議場とか、それとワコールの塚本さんが、ファッション大学は京都においてくれといわれているようですが、僕はむしろ神戸におくべきではないだろうかと思っているんですよ。

木口 せひともそうお願いしたいんですよ。我々の同業者は今、神戸へ来よう神戸へ来ようとしているわけですから、そういう一流どころに対して我々だけじゃなく市も一緒にあって、ポートアイランドにこういうものをつくるのだからぜひ出て来て下さいと呼びかけるだけの意気



森本泰好さん

込みでやらないといけない。もちろん、地場は大切にしないといけないが、神戸の地場だけでやるのじゃなく、プラス積極的な誘致もなかったなら意味がない。世界のファッション都市にするのなら地元だけをいってはいらないと思いますね。もう一つは、神戸の洋菓

界が一つにまとまって、ポーツアイに会館を建てて、そこがファッションに関係のある人たちの溜り場になる。そういうものをぜひ何かの形で出来たら有難いですね。それと、ファッション大学。京都にファッション大学が出来たら若い才能のある人は全部京都へ行ってしましますよ。これはどうしても神戸でやらなければいけないと思いますね。ファッション大学をポーツアイへ建てることと、一流企業をポーツアイへ誘致すること、これには神戸市民間も一丸となってそういう姿勢を示さなければいけないと思いますね。それと地元が大同団結するための



中内 力さん

ファッション会館。これがないとバランスのとれたファッション都市づくりは出来ないと思う。

森本 私も明日の神戸の起爆薬はポーツアイランドしかないと思いますね。神戸は百年都市といわれるのですが百年都市神戸のスタートラインは旧居留地であったと思います。ですから旧居留地のメイン・ストリートである京町筋は神戸にとっては大事な町だった。これがいうならばオールド・ハートだと思う。これに対応する形のニュー・ハートがポーツアイランドのインターナショナル・スクエアではなからうか。その一つの核がホテルなり、国際会議場なり、見本市会場なりで、また別の核がファッション・タウンじゃないか。こういう格好で何かこれからの神戸の青写真が画けたらなと思いますね。

ホテルの機能はいわゆる宿泊施設だけじゃなしにももう少し枠を広げて、情報産業としてのホテルのあり方をぜひとも考えなければいけない。人が集まれば情報がついて回るのだから。それから、国際見本市、メッセの問題ですが、これも神戸なり日本の風土を考えた新しいスタイルの新しいシステムのメッセをぜひとも考えなければいけない。そのときに一番問題になるのは、貸金場になったらダメだということですね。やはりマネージメントが大事ですね。神戸の土地柄を意識して、それに相応しい企画を打って行く。メッセの例として面白いのはフランクフルトでホテルの厨房の連中が中心になって各国の料理のオリンピックをやっているんですが、コンテストで賞を決めたあと、これを市民に有料で開放するわけですね。そうすると市民は居ながらにして世界各国の料理が楽しめるわけですね。こういうことでメッセがいわゆるハードな建物ということでなしに、市民と融け合っているわけですね。神戸でもそういうことを考えたい。

牛尾 そういうことをポーツアイランドを中心に行うということについては行政と離れては出来ない。神戸の経済界もしくは市民はソフトウエアの会社を設立して運営をやらなければいけないということで昨年の夏検討をし

てつくりかけたことがあるのです。しかし、一般市民の文化都市や文化に対する考えから見て未だ時期尚早だということで見送っていたわけですが、出来るだけ早い機会にソフトウェアのサービソ会社を設立してメッセの可能性をあらゆる角度から検討できるように実施に踏切るつもりです。

それと神戸市外のファッソン企業誘致の件ですが、私もポートアイランドは神戸のファッソン企業だけでは無理だと思ひます。ただ、そういう大手筋がいうには、神戸はファッソン都市として良いかも分らないが企業として進出する場合の現実的なメリットは何か、ということなんですね。だから既成のものが出来上ったときに来ることは可能である。しかし、将来構想というものがまだ完全に出来てないときに出て来るのは非常に危険であるという考え方が出ていますね。

木口 具体的に内容が決まらないのだから我々も話が出来ない。だから、ある程度具体的に話を詰めて行かなければいけない時期にきていますね。

宮崎 早くやれというお話なんです、まず、「足」ということを考えないといけないですね。それで今、新交通システムということをやっているのですが、これが昭和五十六年に出来上ります。そういうわけでタイミングを見ているところです。そうでなかつたら、こつちでせかせてみんながやった。さあ、「足」をどうしてくれるのだ、ということになりますからね(笑)。やはり、スケジュールを組んでやらないといけませんからね。

ただ、ファッソン・タウンをつくるにしても、これは民間でつくっていただかないと役所がつくるわけにはいけません。ですから、何もかも役所にお願ひします。じゃなしに、民間でやれるような態勢をとって貰わないといけませんね。

中内 神戸で考えないといけないのは物の流通と同時に人の流通ですね。人をいかに集めるか、居住人口を増やさなくても神戸に流れ込んで来る人口を増やせば、ある

意味において付加価値が神戸に落ちる。それが神戸の経済に結びつくわけですね。人をいかにして誘致するかをもっともつと考える必要がありますね。

牛尾 神戸のファッソン化という目的に則した人間をいかにして集めるかということですね。

中内 それと最近、三宮界隈でオーバー・ストアーが問題になってますね。店舗が増えすぎ売り上げがダウンして来て困るという声が出ていますが、これも今までの商圈を対象にしているからそういう問題が起こるわけですね。商圈をどんどん拡大しないといけません。

宮崎 今度、ファッソン・タウンをつくるにしても神戸のものだけではどうこう出来ないという話でしょ。日本全国から、パリから、ミラノから集めて来ないといけないということでしょうが、その一面、三宮界隈にも東京から店を引っぱって来るのはけしからんという声があるわけですね。しかし、そんな考え方はファッソン・タウンなんて成り立ちませんよ。全体の枠を広げるようなことを考えて貰いたいですね。

森本 神戸は歴史的にみても全国から人が集って、資本も他から持って来てここまで来た町ですから、そういう開放的なところが神戸の持ち味だからこれが排他的になったら神戸の特質がなくなりますね。ただ、そうはいいながら、ある程度、神戸の方向づけが出ていますから何でもいというわけには行かないですね。そこで選択が必要だと思います。ぜひ来て欲しいものを引っ張って来るといことですね。

牛尾 それと神戸から企業が出て行かないようにすることです。

森本 競合関係にある商業集積、さしずめは梅田だと思いますが、これとの差別的優位性を何に求めて行くかという問題。ただ莫然と商店を集めていてもダメで、ポートアイランドに行かなきや他にはないということ、そういうオリジナリティーをハッキリと出して行かないとダ

メです。

中内 ポートアイランドと三宮とは一体のものですね。

電車で来た人は三宮で降りて、そこから新交通システムでポーアイへ行くわけで、帰るのはやはり三宮ですな。

だからポーアイのホテルへ来る客は三宮の客でもあるわけですね。したがって、ポーアイに駐車場をつくるという

ことは三宮のための駐車場と考えたらいい。そうすると神戸だったらクルマで行けるといふことで大阪との優位性が出て来ますね。

牛尾 ただ、購買層がこの四年間でものすごくレベルが上っていますね。例えば三宮の地下街でどれだけ商品が売れているか、どういう層に売れているのか、これをチェックしないとポートアイランドのファッショントウンは難しいと思いますね。

森本 それと神戸の商店街は夜が早いですね。ということは二十四時間都市に成り得ない。ですからポートアイランドにマスコミ・センターが欲しいわけです。新聞、ラジオ、テレビは二十四時間動きまますからね。

#### ★多角的なファッショントウづくり

宮崎 私は神戸の特徴をポートアイランドにつくり上げて行くかと思っているのですが、同時に既成の三宮なりあるいはトーア・ロードとか元町とか北野界限、そういうものも合わせてファッショントウづくりを上げて行って、単なる点とか線ではなしに、点もあり線もあり面もあるという多角的な行き方をしなかつたならいけない。

それから、そういう受け皿づくり、魅力ある都市づくりをやると同時に、やはりファッショントウとか、知識集約型産業とか文化とかいうものは人がつくり上げて行く。だから、人づくりということが一番大事な問題ですね。

ですから、今、ファッショントウ市民大学をやっているのですが、こういうものを正式に大学の芸術科などにするとか、あるいは芸術部のなかにファッショントウ科を設けるとか、そういうものをつくって、もつと高度な人を養成する。

同時に専門家だけじゃなく、底辺をもつと広げて行く。そういう人々がファッショントウの基になると思っていますね。

それと、もう一つは、神戸全体のイメージ・アップを計るためにもつと宣伝活動をしなかつた方がいい。商工会議所あたりでやっていただきたいですね。

森本 私はファッショントウは文化と経済の接点にあると思うのですが、最近、意識革命という言葉が出ています。消費者・生活者の主役がいろいろなところのニュー・ファミリーになって来たわけです。彼らは非常に美意識をもっている世代だといわれている。だから、時代的な流れとしては益々ファッショントウ都市化の運動が受け入れられやすい背景が出来つつあると思うので、一番最初に会頭がおっしゃったように的を得たことだったわけです。だから自信をもって今後も進めて行くべきだと思います。

中内 神戸の特殊型をお互いが認識して、そのための町づくりと人づくりという両面を今から計画する必要があります。のじやないかと思えます。

木口 みなさんがおっしゃった通りなんです。が、いづれにしても、ポーアイを目玉商品として本当に完璧な、誰が見ても良いものにして貰わないといけないのですが、それについては市長がおっしゃったようにもうちょっと市民へのPRというか、みんなが神戸はこれで行くんだという姿勢、全市民の合意を何らかの方法で徹底して行くことですね。市民の総意がないとやっぱりな完成したものは出来ないですね。

牛尾 市長の頭の中にあるポートアイランドの構想、これをせひとも実現したい、ということに尽きますね。

外島 これだけみなさんが神戸のファッショントウ都市づくりに意欲を燃やしているわけだし、それを完成させるための市民のコンセンサスというものはやはりその接点の商工会議所がやらなければならない仕事ですね。だから、市長が考えている神戸の町づくりを我々会議所も賛成しているのだから、大いに協力してやって行くことですね。

(相楽園会館にて)

---

### ウシオ工業株

取締役社長 牛尾 吉 朗  
神戸市葺合区浜辺通 5丁目2の1  
神戸商工貿易センタービル18F  
T E L (078) 251-1651(代)

---

### 田崎真珠株

取締役社長 田崎 俊 作  
神戸市葺合区旗塚通 6の3の10  
T E L (078) 231-3321

---

### オールスタイル株

取締役社長 川上 勉  
神戸市生田区伊藤町121  
T E L (078) 321-2111

---

### 株ワールド

会長 木 口 衛  
神戸市葺合区八幡通 3丁目1の12  
T E L (078) 251-5311

---

### カネボウベルエイシー株

取締役社長 稲岡 必 三  
神戸市生田区三宮町1丁目43番地  
T E L (078) 392-2101

---

### 株ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男  
神戸市生田区三宮町1丁目54  
T E L (078) 332-3155

---

### モロゾフ株

取締役社長 葛野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町 6丁目11番19号  
T E L (078) 851-1594

---

### 入 船株

取締役社長 小泉 進 吉  
神戸市灘区新在家北町 1丁目1-19  
(阪神電鉄新在家南) プリコビル3F  
T E L (078) 851-3191

---

### 神戸地下街株

さんちかタウン・サンこうべ  
神戸市生田区三宮町 1丁目1  
交通センタービル 8F  
T E L (078) 391-4024(代)

---



キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の  
企画は以上9社の提供によるものです。

Orthodontist



播磨矯正歯科

神戸・元町 ☎391-5288

夏の光にてあざやかな色 リフレッシュクリーニング



あなたのファッションをFRESH UP!  
ニシヤ  
神戸市灘区北田町1 ☎078(85)2440  
山手店 三宮店 熊内店 宝塚店

## 経済ポケット ジャーナル

★神戸タワーサイドホテルの経営主体が変更

「神戸タワーサイドホテル」(生田区波止場町一)の経営主体が六月一日付で変更した。



神戸タワーサイドホテル全景

同ホテルは昭和四十五年に神戸港振興協会が建設、

神戸ホテル阪神株式会社が発行に当たっていたが営業不振のため昨年二月から神戸市民生活協同組合(理事長/宮崎辰雄神戸市長)があとを引き継ぎ「舞子ビル」経営で実績のある経営手腕で見事に赤字を解消していた。ところが元来、営利を目的としない生協が大幅な黒字を計上したり、組合員以外が利用することに對し



て疑問視する声があり、このほど、新たに「神戸協同興業株式会社」を設立、同ホテルの経営を引き継ぐことになった。

同社は同生協のほか、神戸港振興協会、神戸地下街、神戸高速鉄道、神戸中央青葉、神戸商工貿易センターなど神戸市の外郭団体九団体が共同出資し、資本金四千万円で運営される。社長には大熊律夫同生協専務理事が就任する。

★「神戸新交通株式会社」設立の運び

新交通システムとして注目を集めているポートアイランド線の経営主体となる新会社「神戸新交通株式会社」(仮称)の設立がこのほど決定。同社は神戸市、神戸商工会議所、および民間の企業が共同出資し、初年度資本金は十億円。

★芦屋で経営開発シンポ  
芦屋青年会議所(和田透理事長)が今年で創立五周

年。その記念式典が来たる七月三十日、芦屋ルナホールで行なわれるが、それと同時に日本青年会議所主催の経営開発シンポジウムが芦屋J.C.が主管として翌三十一日、芦屋ルナホールおよび芦屋市市民センターで開催される。

八回目を迎える同シンポジウム、今回は「ど根性かんだい商法、がめつく生きる中小企業」というテーマのもとに高橋荒太郎氏(松下電器産業(株)顧問)が基調講演をする。そのあとの分科会、パネルディスカッションのメンバーは次の通り  
分科会 吉本晴彦(吉本土地)、能村竜太郎(太陽テント)、月山貞一(ハ刀剣家・人間国宝)、パネルディスカッション 加藤寛(大阪応大教授)、宮田義二(八鉄鋼労連委員長)、小島正興(八丸紅常務)、中川健三(八近畿地区協議会会長)

### ★ KOBE オフィスレディ ★



井上ゆかりさん(20歳)

神戸デザインエージェンシーデザイナー

神戸デザイナー学院でイラストを専攻、この4月から現場で活躍している。まだあどけないところが残っている社会人一年生。竹久夢二やトミー・アンゲラの絵が好きで、将来できるなら人が見て安らぎを感じるような絵本を画きたいなあ……という夢がある。でも、それじゃお金にならないかなあ……とチョット心配顔。どういうデザインを創ろうかと考えるときが一番楽しいそうだ。

★バンドー化学新社長に  
櫛木氏就任

バンドー化学株式会社(本社/神戸市兵庫区)は六月二十八日の株主総会で現社長榎並正一氏を会長に、副社長の櫛木茂男氏を社長にそれぞれ昇格した。



櫛木茂男氏

櫛木氏は昭和十六年東京大学法学部卒業、一七年一月日本興業銀行入行、以後同行富山支店次長、人事部長、事務部次長、事務管理部長を歴任、四十六年トリオ副社長就任、四十九年一月興銀情報開発センター社長就任のち、昨年六月榎並氏の要請でバンドー化学副社長に就任した。山口県出身。五十七歳。

# 南京町

春 木 一 夫

<作 家>

え・松岡 寛一

元町裏の南京町は、中国人街のように思われているけれど、ぼくにとってはそうではない。もっと親しみのある自分たちの長屋のよ  
うな感じだ。

今から二十年ほど前、いわゆる芸術家の卵と称する連中が、南京  
町の喫茶店や外人バー、めし屋でごろごろしていた。

ゼニがなくてひまのあるものばかりだから、朝から深夜まで、一  
杯十円のコーヒや二十五円の焼酎を呑んで、気えんをあげていた  
ものである。

その中には、後に芸術選奨を貰った足立巻一や直木賞候補になっ  
た杜山悠、行動美術の審査員員原六一などがいる。

ぼくらの拠点は「貧乏神」という呑み屋であった。詩人の米田透  
が経営する店で、常に客はなく閑散としていたから、何時間いても  
主人も客も苦にならなかった。米田は客がくると、豆腐やらつき出  
しの豆を買いに走る。その間、こちらは留守番。金を持った友達が  
くると、主人も客も相伴しやうばんにあずかるという呑気さである。

金のないことは強いものであることを、今から思えばしみじみと  
感じる。

南京町では、われわれは顔であった。どこの店でも、自分の庭の  
ような顔で入っていく。マスターもママも、いやな顔一つ見せない。  
夏分には冷房のきくコーヒ店で、十円のコーヒ一ぱいだけで、一日  
中読書していたこともあった。

ああ、だが、今の南京町には、こういった情緒が見られない。残  
念である。



K  
Matsumoto



—真昼南京町—

# 胸がときめく高架下

クレイグ・リッター

〈カナディアン・アカデミー教師〉

え・知念正文

神戸にはじめて来た頃は、慣れないせいもあり不安でしたが、日本語が少しわかるようになり、日本の文化が理解できるようになってくると、一人でブラブラと町を歩くのがとても楽しみになりました。何とか日本にとけこめたというナイーブな気持ちもてるようになりました。が、しかし、やはり私が外国人であるということをはっきり感じてしまう場所が神戸に一カ所だけあります。それは元町高架下商店街です。ここは安い買物が楽しめるパラダイスで、外人の旅行者であれ、住民であれ、誰にとっても大変楽しい所です。

元町駅近くの色あせたアーケードに入ると、形や色とりどりの品物が次々と目にとびこんできます。お店の品物は山のような積み上げられ、ちょっと押しただけでも全部ひっくり返ってしまいそうです。私にはわかりそうにもありませんが、お店の人たちはどこに何があるのかをちゃんと知っており、乱雑にみえても、順序よく並べられているにちがひありません。それぞれの掘り出し物をさがしにここへやってくるいろんな人たちに私は驚きます。外国の船員たちもこの穴場をよく知っており、神戸を訪れる観光客さえもこの格安の買い物客のパラダイスを教えられ、港からかなり離れているにもかかわらず、掘り出し物をさがす腕だめしをするかのような気分だここへやってきます。ここにしていると私は異国情緒を一番強く感じます。この品物や人間の多様さは、同一人種、同一文化の日本とは全く対照的です。

さまざまな人間のこの奇妙な集まりによってかもし出されるバイタリティと熱気を肌で感じるのとはとてもスリルがあります。元町高架下は一つの別世界のようで、私は大好きです。



# 兵庫・平野の温泉

志 保 見 道 雲

〈般若林八王寺住職〉

え・松岡寛一

終戦間もない頃、独り住いの私は、毎朝始発の市電に乗って神戸の名所、天王温泉へ通っていた。雨の日も、風の日も、夏も冬も、また盆や正月もなく毎朝ご苦労さん。朝風呂の気分は格別いいものであった。

当時、泉友会という朝風呂連中が集まる会があり、甲南汽船の社長、田中卯三郎氏が会長だったと思う。その新年会や忘年会は、日曜日の朝に、前田二一六氏宅の二階で催された。前田氏は、元市会議長まで勤めた神戸市会の元老。天王温泉を買収し、経営されていた。今は亡くなり、夫人の妹さんである井上末子氏の名義になっている。

泉友会のメンバーのなかでも、私は、畏敬していた植木義邦（臨濟宗に僧籍があった）、高楠了超（医学博士）、沼田吾一（弁護士）鷺尾清治（病院長で医学博士）、七ノ宮の宮司太田直三郎、松林貞治、近藤源右衛門、青木義、山之内正一氏らと、毎朝楽しく語りあった。

朝風呂のあと、石井橋からタクシーで中央市場のなかにある寿司屋や、湊川トンネルの東側のカドヤというおでん屋へ、風呂桶をさげてよくいった。

まさしく裸のつきあいだから、みな、虚心坦懐、腹藏なくしゃべる。井戸端会議ならぬ朝風呂談義。朝の楽しい一時であった。

それは、十数年間、今の八王寺へ移住するまで通い続けたものである。



# 湊川市場

田 辺 聖 子

<作 家>

え・田中徳喜

台北の三水市場へいったとき、

「あっ、神戸の湊川市場そっくりだ！」

と、私はずれしくなりました。

三水市場は龍山寺の前にある、食料品店通りであるが、食料品の豊富なこと、その活気と喧騒においてまさしく、台湾の湊川市場というべきものである。

しかし、湊川市場は三水よりもっと広い。そうして横丁にまた小さい市場があり、つきぬけると、更に別の市場になる。地理をおぼえ、各店の特色をおぼえると、スイスイとわが庭の如く歩いて、好きな買物ができる。

とくにここで楽しいのは、魚や野菜をバックにしないので、しなびていなくて新鮮なのだ。青々と水にぬれた野菜を撰り、魚を片身だけ買ったりできる。豆腐屋は、その店で作っているのだからオカラを売っている。かまぼこ屋でハモの皮、モツ屋で豚の足を見つけたりし、匂いの香ばしいあげたてのコロッケも、あの店がおいしい、と常連にはわかる。

小さい専門店があるのも、この市場のたのしさであろう。七味唐がらし屋は、それだけを売り、田舎漬けたあんの店は、何年もそれだけを売りつづけている。市場の中に、古着屋があるのもいい。ハムのきれっぱし、パンの耳から、明石のひるあみでとれとれの高級魚まで、タベモノがあふれていて安いのだ。人々は食欲への期待にみちてゆきもどりと、横丁から路地へぬける。

この喧騒と活気を文化といわずして、何が文化であろうか。



# 追憶の街

中 村 隆

<詩 人>

え・小西保文

神戸駅に降り立つと、あたり一面は焼野原であった。

生家のある新開地方面を眺めると、一本の立枯れの樹のように、タワーが青空に突き刺っていた。東京からほうほうの態で逃げ帰った私は思わずホッと胸を撫で下ろした。「またずにのれる阪神電車」のイルミネーション、公園の水族館、曾我廼家五郎劇の松竹劇場、キタヤ食堂のエレベーター。幼い日の思い出が私の胸裏を電光板のように走った。敗戦の年の春のことであった。

私の青春は、まもなく再興された新開地と共にあった。

毎夜、友人を誘い下駄ばきのパンカラ姿で、新開地の上から下までハシゴして歩いた。美人のママさんがいたトリス・バー、五人も並べば満員のおでん屋、オヤジも一緒に酔っぱらって鮎のにぎれぬすし屋。飲んでは唱い、そして青い文学論に怪気炎を上げて夜の更けるのも知らなかった。しかし、店の主人は金に縁のない私たちを気ままに遊ばせてくれ、時には振舞酒をおごったり、茶漬けを馳走したりまでした。店を出ると肩を組んで大通りを濶歩し、「妻を娶らば、才たけて……」と大声をはりあげた。そんな新開地の殆どのお店は消えていき、毎夜見上げた心のシンボルであったタワーも今はない。そして私の青春も――。

下町とは消えてゆく思い出の街の謂いであろうか。大正、昭和を通じて多くの詩人、画家、映画人を育てた追憶の街は、一度戦火に焼かれ、再び自らの手でバラ色の「宝石箱」を焼き捨てようとしている。



# 和田岬

武 田 芳 一

〈武田歯科医院〉

え・田中徳喜

兵庫の津は大輪田の泊りといつて、大昔からの港だった。

その西側の岬が和田岬である。いまの和田岬は工場の多い場末にすぎないが、昔は白い砂浜に青い松原のつづく風光明媚の所だった。そこへ三菱の造船所が建って、四囲も工場街に変わってしまった。兵庫の人はここを御崎と呼んだ。年に一度夜通し賑う縁日があった。葉仙寺の二万八千日で、路の両側は露店が並び、風船の竹笛がきこえた。

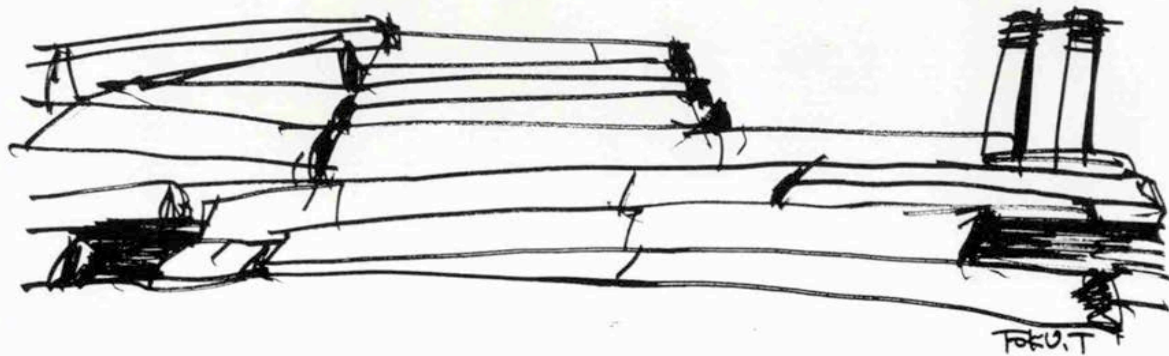
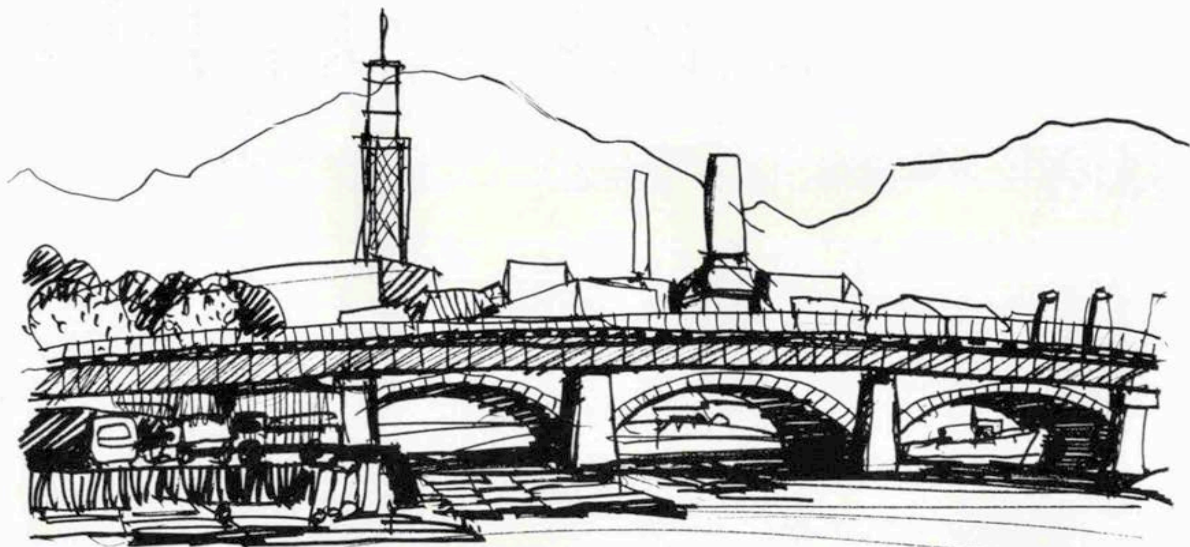
寺の横を南へ下ると新川の廓だった。

そこは広い河と工場になっていた。御崎本町から三菱へ曲る角はイチマ館の映画館だったが、これも工場であった。御崎本町の商店街は、学校の塀と小さい家並みの下町であった。

学校は県立工業高校、昔は外墓といわれた墓地だった。墓地の南側に元祖はんとよばれるお堂があった。堂内は六字の名号を彫った二米ほどの碑だった。字は法然の真筆といわれ、このお水を、危篤の病人にのますと、治るか、死すか、苦しむ時間が短くなる口伝があった。

私も死期の祖父のためにもらいにきた記憶がある。外墓と共に移転したかと思つたが、学校の西側の奥まった所に残っていた。玉垣も小さい石門も昔のまま、堂内は線香と明りがゆらめき、碑前の水溜めには木蓋と柄杓が置いてあり、老女らの詣りもたえていない、俗伝はやはり生きていた。

碑にねがいをこめる五月雨 いしよみ



TOKU.T

# 長田の芝居小屋

名生昭雄

〈県立兵庫高校教諭・民俗芸能研究家〉

え・知念正文

神戸唯一の大衆劇場新生楽園！

表の看板にこんな文字がみえた。

長田神社へ向う途中に、新湊川にかかる長田橋がある。

そのもとにひっそりとたたずむのが、この小屋である。

一歩なかへ入ると、昔懐しい芝居小屋のムードが漂う。舞台正面と上手かみで棧敷に掲げられた提灯の列、それに嬉しいのは常設の花道が下手しもでにちゃんと備わっていることだ。客席の前半分は切落しの土間、後半分が椅子席である。観客は女性が九割を占め、飲み食いしての芝居見物である。

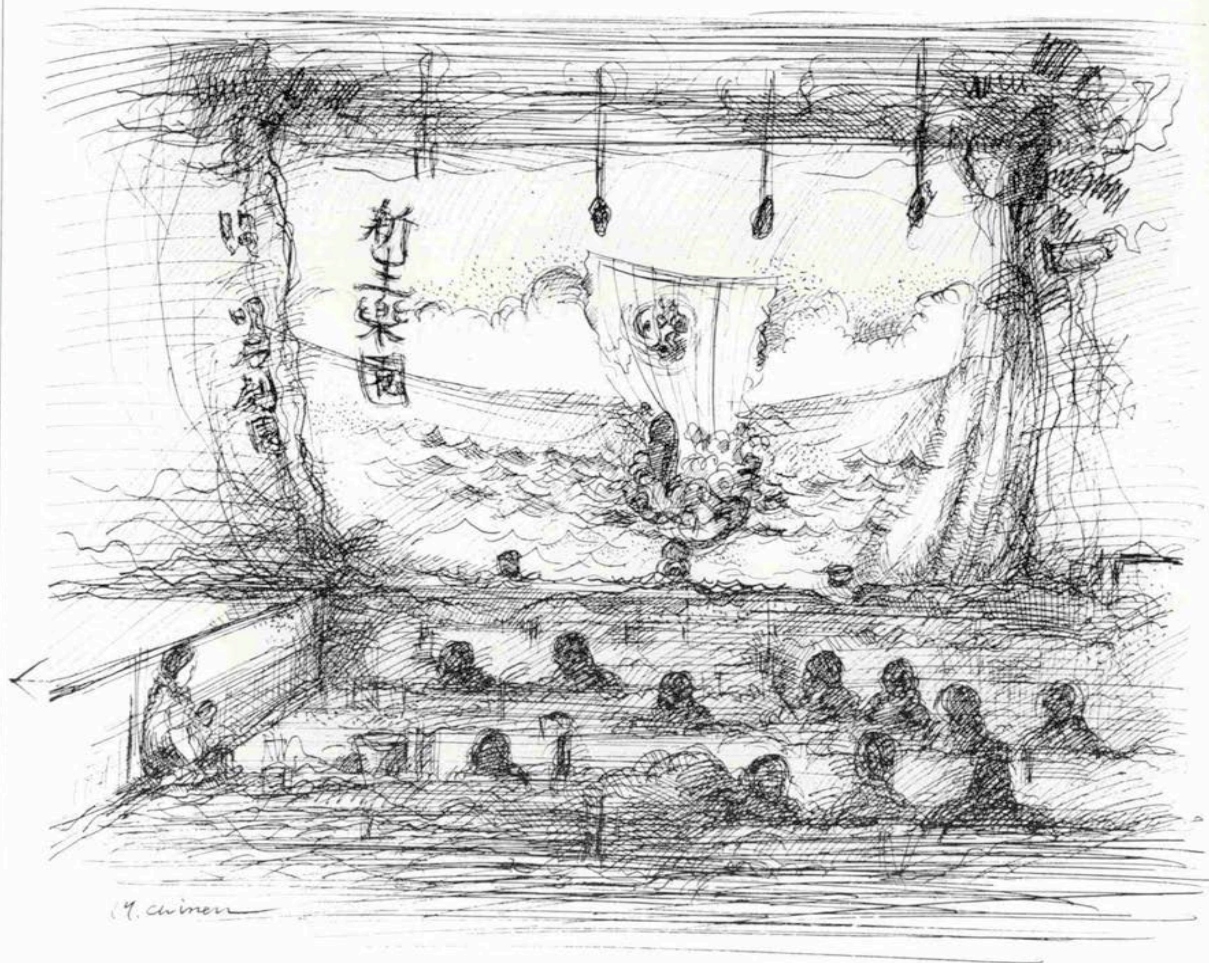
歌と踊りとお芝居の「瑞穂座」がこの月の興行だ。男女あわせて一〇名ほどの座組みである。

前狂言・中狂言・切狂言の三本立、中身は看板の逆に進む。さすがに座長の山崎ひろしの風格ある芸は抜群だ。この人の女形がよい。隣りで見えていたさし絵の知念さんが「これは女の人ですか」と真顔でたずねるほどだった。

昔は神戸にもこんな芝居小屋があちこちにあった。私の幼い思い出にも兵庫の末広座がかぶ。中村末之助一座や市川おもちや座などの芝居がかかっていた。

いよいよフィナーレ、山崎ひろしの襟元に一万円札の花が咲く。文字どおり見物衆からのハナである。

役者が見物席の間をぬって客に語りかける。なんのことはない、江戸期の芝居小屋のエッセンスがここに凝縮しているのだった。



# 須磨寺

山 本 芳 樹

〈山陽文化センター主宰〉

え・小西保文

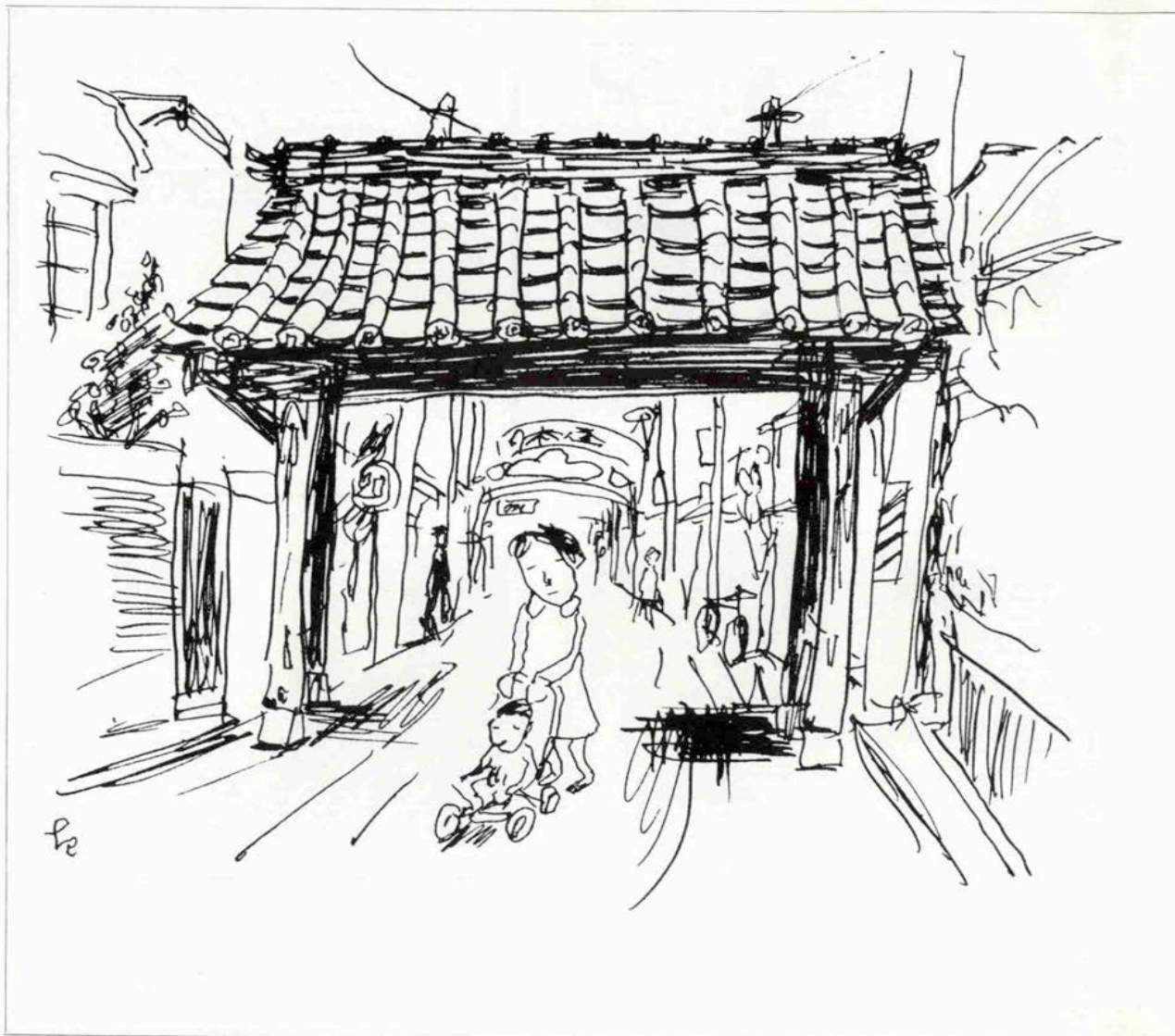
久しぶりに須磨寺をたずねた。電車の須磨寺駅前から真直ぐに北へ、商店街のなかをぶらぶら歩いた。まことに雑然とした気易い街並みの門前町である。お寺さんによって出来た商店街であるから、墓石の石材屋さんからお供の花屋さんがあるのは当然として、そば屋、仕出し屋、お茶園、京染屋、そしてブリキ屋まである。なんでもある感じ。道の上に張られた商店街のテントも痛んでたれ下っている。しかし不思議とそんな光景もあまり気にならない。

六、七分歩くともう参道の入口。その右側に「須磨霊泉」がある。昔の水洗い場のようにつくられた囲の中の正面の二つの筒口からキレイな水がどンドン流れ出して、下校途中の小学生たちがワイワイいいながらコップや水筒で水を受けて飲んでいた。

大きなわらじが吊下げられた仁王門をくぐると桜並木の青葉や色濃い背山の原生林の緑が初夏の陽ざしに鮮やかである。石段を登って本堂に入ると流石にヒヤッとして心地よい。左側に大師堂、その前に青葉の笛などを収めた宝蔵閣がある。平日のせいかな人影は少く静かで、あの大師縁日の日の賑いがウソのようである。

この須磨寺は、源平ゆかりの寺として、特に教盛とその青葉の笛によって古くから全国的に知られた。そして信仰面では現在神戸市内最大の寺として、また最も参詣者の多い寺（年間百数十万人）として「須磨のお大師さん」の愛称で親しまれる弘法大師信仰の中心でもある。

歴史の実証のような大池畔の旅館群をながめながら、私はこれも池畔のカフェ風喫茶店で、ホット・ケーキの焼けるのをボンヤリ待っていた。



よいこのお友たち  
水あそびの仲間が来たっつたよ



おもちゃの



**カメヤ**

三宮方面でのお買物は…  
 さんちか店 ファミリータウン ☎ 391-4045  
 三宮店 センタープラザ ☎ 331-4969  
 元町方面でのお買物は…  
 元町店 元町通3丁目山側 ☎ 331-0090  
 パンプウ店 元町通1丁目不二家前 ☎ 391-0768  
 神戸駅前方面でのお買物は…  
 サンこうべ店 神戸駅前地下街 ☎ 351-6002

# オリエンタル レディスクラブ

**会員募集中**

年会費：お一人10,000円(ホテル利用券5,000円を含みます)  
 割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル  
 での宿泊、飲食の際サービス料10%はいただき  
 ません。その他いろいろの割引がございます。  
 特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ：オリエンタルホテル内  
 オリエンタルレディスクラブ事務局  
 ☎ (078) 331-8111

## 三宮センター店

- 3階 レストラン
- 2階 喫茶・パーラー
- 1階 洋菓子アイスクリーム
- 地階 喫茶・パーラー

皆様そろって  
 ぜひご利用下さいませ



**ユーハイム・コンフェクト**

■本社・工場・熊内店 神戸市灘合区熊内町1の8(市立美術館東隣) TEL. 221-1164  
 ■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・三越・神戸デパート・元町店



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

## 三恵洋服店

元町4丁目 TEL (341) 7290